

人口等の動向及びアンケート調査結果のまとめ

	人口等のデータ分析の結果	アンケート調査の結果
人口推移	<ul style="list-style-type: none"> 国調人口で昭和50年以降の人口増加率は県平均を下回って推移し、平成17年から人口減少に転じている。 社人研の人口推計では、2010(H22)年基準で、2020(H32)年で3.9%、2030(H42)年11%、2040(H52)年で18.8%減少すると推計される。 	
人口の年齢構成	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年時点で、老年人口は23.3%、生産年齢人口は61.8%、年少人口は14.4%。 生産年齢人口は平成7年以降、年少人口は昭和50年以降減少。 平成27年1歳階級別人口ピラミッドでは、15歳以下は年齢が低くなるほど人口が少なく、年少人口は今後さらに減少する。 社人研の人口推計では、老年人口割合は、2020(H32)年で29.2%、2030(H42)年31.6%、2040(H52)年で37.9%となり、それ以降はほぼ横ばいとなると予測。 	
世帯数	<ul style="list-style-type: none"> 世帯数は、一貫して増加している。 単独世帯と夫婦のみ世帯が大幅に増加し、いずれも2割以上を占める。 男性は、30歳～64歳の層が、女性は、65～74歳と75歳以上の層で単独世帯が大幅に増加。30歳未満の若い層の単独世帯は減少。 夫婦と子からなる世帯が最も多いが、平成12年以降減少しており、33.6%の割合となっている。 ひとり親からなる世帯も増加傾向になる。 	<p>【子育て世代アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世帯の種類では、親と子どもの2世代世帯7割以上を占め、3世代世帯は1割程度にとどまる。 <p>【転入・転出者アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 移動した時に単独世帯は、転出者で約6割、転入者は約5割を占めている。
結婚	<ul style="list-style-type: none"> 男女とも、各年齢ともに未婚率が上昇。 20歳後半では、男は7割、女は6割が未婚。男性は30～34歳でも約5割が未婚。 津島の未婚率は、周辺都市に比べると低い。 	<p>【子育て世代アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「結婚している」が約6割、未婚が約4割。 未婚の人の将来の結婚の意向は、「できるだけ早く結婚したい」が約2割、「いずれ結婚するつもり」が約5割となっている。 未婚の理由は、「適当な相手に巡り会わない」が約5割と最も多い。「経済的不安がある」も3割以上みられる。特に、男性は「経済的不安がある」が5割以上となっている。 「友達と気楽に参加できる」「参加者同士が交流できる」婚活であれば、それぞれ未婚者の4割以上が参加を希望している

		<p>【若者アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の結婚希望は、7割以上が結婚したいと思っている。 ・親しい異性の友人の有無は、「いる」が5割いるが、「いない」も約44%と半数近くいる。 ・異性との出会いについて「欲しい」と「わからない」が約37%、「欲しくない」が約24%
出産	<ul style="list-style-type: none"> ・20歳～30歳代の女性の減少が続いている。 ・合計特殊出生率は、平成23,24年に急激に低下している。 ・出生数は、平成13年以降減少。母親の年齢別では、各年齢ともに、出生数が減少しているが、特に30～34歳の女性の出生数が平成23年にかけて大幅減少している。また、30歳代の女性の出生率が平成23年にかけて大幅に低下している。 	<p>【子育て世代アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欲しい子ども数は、「2人」が最も多く約53%、「3人」も約25%、「1人」6.4%に対し、現在の子どもの数は「1人」が約39%、「2人」が約45%で、「1人」の割合が多い。 ・子どもを持つために必要なことは、「子育てにお金がかかりすぎない」が約78%と最も多く、「地域の保育サービスの充実」と「働きながら子育てできる職場環境」と「子どもがのびのび育つ環境」がそれぞれ5割以上みられる。 ・家庭での育児や家事の役割分担は、「基本的には妻の役割で、夫は手伝う程度」が7割以上、「妻の役割」という回答も含めると約87%が主として妻の役割となっている。 ・子育てに重要な支えは、「重要である」と「ある程度重要である」を合わせるとどの項目も高くなっているが、「重要である」の割合をみると、「家族の支え」が約9割、「行政の支え」が約7割、「職場の支え」が約35%、「地域の支え」が約3割、「仲間やボランティアの支え」が約2割と、家族以外では行政への期待が大きい。
転出	<ul style="list-style-type: none"> ・社会動態は年によってプラスとなる場合もあるが、H22年以降はマイナスが続いている。 ・転出数は、H14年以降はゆるやかに減少。 ・転出数は25～29歳の最も多く、続いて20～24歳、30～34歳の転出数が多い。 ・H24,25年では、男性は25～29歳で最も転出超過が大きく、この層を中心に10歳代から34歳までの転出超過が大きい。 ・女性は、20から30歳代で転出超過となっている。(H17からH22の間では、40歳代の前半まで転出超過となっていた。) ・愛西市、あま市、蟹江町、名古屋市中川区への転出が多いが、愛西市への転出が突出して多い。 ・津島市から多く転出している愛西市では、賃貸住宅、分譲住宅の着工数は少ないが持家の着工数が多く、平成21年から25年 	<p>【子育て世代アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「住み続けたい」と「住み続ける予定」を合わせると約4割あるが、「住み替えたい」「住み替える予定」「住み替えざるを得ない」を合わせると3割以上が住み替える意向を持っている。 ・住み替える理由は、「通勤・通学が不便」「子育て環境が悪い」「交通が不便」「結婚」「住宅が狭い、間取りが悪い」が20数%ずつみられる。個人的な理由以外では、交通問題と子育て環境が住み替え理由となっている。 ・住み替え先の地域は、津島市内が約4割と多い。市外では海部地域と名古屋市がともに25%以上となっている。 <p>【若者アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の定住意向は、「住み続けたい」と「一時的に市外に住むが将来は津島市に住みたい」を合わせると27.3%、「津島市外に住みたい」が25.0%とほぼ同じ割合である。

	<p>にかけて増加傾向が続いている。津島市は、横ばい傾向にあり、持家の着工件数は、愛西市が津島市を上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・将来住みたい所の条件は、「交通の便が良い」56%、「治安が良い」が約41%、「買い物の便が良い」が約25%となっている。 【転出者アンケート】 ・転出理由は、「結婚のため」が約3割と最も多く、「親や子供と同居または近くに住むため」が約2割、「持ち家を購入」が約14%。 ・津島市で暮らしての不満は「公共交通が不便」が3割以上と最も多いが、良かった点も「駅やバス路線が便利」と「買い物が便利」がそれぞれ約3割あり、利便性を評価している。 【不動産事業者へのヒアリング】 ・この地域の住宅・宅地の購入者は、津島以外の場所を希望する傾向がみられる。 ・津島は、子育て支援などの福祉環境の悪いという評判に加え、都市のイメージが悪いことが影響しているのではないかと。
<p>転入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・H6,H12,H13年は、転入数が増加して、転入超過。近年はゆるやかな減少傾向が続く。 ・転入数は、25～29歳が最も多く、続いて20～24歳、30～34歳の転入数が多く、人数は同程度で推移。 ・0～4歳の転入数が減少しており、乳幼児のいる世帯の転入が少なくなっている。 ・愛西市、あま市、名古屋市中川区、稲沢市からの転入が多いが、転出の方が多いため、いずれも転出超過。 	<ul style="list-style-type: none"> 【転入者アンケート】 ・転入理由は、「持ち家購入」が約20%と最も多く、次いで「転勤・転職」が約16%みられる。 ・転入者の住宅は、民間の賃貸住宅が約35%と最も多く、「自分の持ち家」が約25%、「実家・親の家」が約19%みられる。 ・転入場所の決定理由は、「駅やバス路線が便利」と「職場や学校に近い」がともに23%あり、利便性を理由にしている。 【不動産事業者へのヒアリング】 ・津島市と愛西市の住宅価格の相場は2300～2500万円に対して、あま市は3000万であり、津島市・愛西市は所得水準が低いために安い住宅を求める人が多い。 ・名古屋市からの住宅需要の範囲は次第に狭くなっており、国道302号までが中心で、西尾張中央道までが限界である。津島市では名古屋市の住宅需要は期待できない。
<p>定住魅力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の幼稚園に通園している未就学児のうち、市外の幼稚園に通園している割合は3割以上ある。しかも、微増ではあるが年々その割合は増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 【子育て世代アンケート】 ・子どもを産み育てやすい環境とするために力を入れることは、「子どもの医療費の負担軽減」が5割以上と最も多い。「安心して子供を遊ばせる広場・公園の整備」「安心して出産・子育てできる医療体制」「児童手当の拡充」がそれぞれ25～30%程度みられる。 ・多くの人々が住むようにするために力を入れることは、「子育て支援・子育て環境の充実」が約50%、「道路や公共交通網の整備」が約40%と、子育て支援と交通の利便性の向上が求められている。

		<p>【若者アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が住むようにするために力を入れることは、「道路や公共交通網の整備」が約 43%と最も多く、交通の利便性の向上を求めている。「雇用機会づくり」「子どもやお年寄りがすごしやすい」「商業施設の誘致」「学校・教育が整っていること」がそれぞれ 20%以上みられる。 <p>【転出者アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津島市に暮らしてよかった点は、「買い物が便利だった」「駅や路線バスが便利だった」「のんびり暮らしやすかった」がそれぞれ約 3 割あり、生活の利便性を評価している。 <p>【転入者アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津島市が良くなるために期待することは、「子育て支援サービスが充実すること」と「医療、高齢者・障がい者支援が充実すること」が約 44%、「電車、バスなどの交通の便が良いこと」が約 40%と、福祉サービスと交通の利便性が期待されている。
仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・第 3 次産業就業者数が最も多く、67.5%を占める。第 2 次産業就業者数は 30.5%。 ・第 3 次就業者数はほぼ横ばい傾向にあるが、第 2 次産業就業者数は H7 年以降減少が続く。 ・産業別年齢別就業者数割合は、情報通信業と複合サービス業は、39 歳以下の若い就業者の割合が高い。 ・産業別就業者数では、男性は、製造業、卸売・小売業、建設業の就業者数が多く、女性は卸売・小売業、医療・福祉、製造業の就業者数が多い。 ・若い就業者の割合が大きい情報通信業と複合サービス業の就業者数は少なく、特化係数も低い。 ・人口一人当たりの家計所得は、愛西市よりもわずかに上回っているが、津島市と愛西市が周辺地域の中では一番低くなっている。 	<p>【若者アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来、職業・就職先を選ぶ時の重視項目は、「賃金」50%、「休日や勤務時間」が約 43%、「やりがいがある」約 35%、「自分に向いている」33%と、仕事の内容も重視しているが、それ以上の待遇条件を重視している。 ・就職してみたい地域は、「名古屋市」が約 36%と最も多い。「津島市内」は約 15%にとどまる。 ・津島の外で就職したい理由は、「希望する企業や仕事がない」が約 6 割、「視野を広げたい」が約 4 割と、職場が少ないことを理由にしている。 ・津島市で就職するために取り組んでもらいたいことは、「企業誘致して働き場を増やす」が約 5 割、「労働条件が良くなるように市内企業に働きかける」約 4 割と、企業を増やすことと市内企業の労働条件の改善をあげている。

人口等の動向及びアンケート調査からみた課題分析

